



春のオススメ本紹介

YA担当より

少しずつ暖かくなり、春が近づいてきていますね。
春は出会いの季節。YAコーナーでは、みなさんと新しい本との出会いを
応援しています。あなたにぴったりの1冊を探してみませんか。



① 「クレヨンで描いた おいしい魚図鑑」

加藤 休ミ／著
晶文社
YA書架 664カ

鮭、金目鯛やエビなどを魚そのままを描くのではなく、料理にして描いてあるちょっと変わった魚図鑑です。全てクレヨンで描かれていますが、そうとは思えないほどリアルで美味しそうな料理がたくさんあります。著者の休ミ先生のことばや編集のスナメリ舎さんの解説もおもしろい一冊です。生まれたときから料理が完成するまでをたどる「魚の一生」などもあります。みなさんはどれが一番おいしそうに見えますか？

② 「もしぼくが本だったら」 ジョセ・ジョルジェ・レトリア／ぶん アンドレ・レトリア／え KTC中央出版 YA書架 Eレ

ベンチの上にぽつんと置かれた一冊の本というシンプルな表紙の絵本を開けば、最初にこう書かれています。
「もしぼくが本だったら つれて帰ってくれるよう 出会った人にたのむだろう」
なんだか本の呟きを聞いているような気分になりませんか。「もしぼくが本だったら」という書き出しで綴られる本の想い。あなたは、本とどんな関係を築いていますか。読み終わったときには、本が愛おしく思えることでしょう。

③ 「お絵かき禁止の国」 長谷川 まいる／著 講談社 YA書架 913ハ

漫画を描くことが好きな中学3年生の女の子ハルは、同級生の女の子アキラのことが好きになります。周りには漫画を描いていることと、アキラのことが好きなのを隠しているハル。
誰にも言えない恋の悩みを抱え葛藤するも、自分の気持ちに素直に生きようとするハルの姿に心を奪われます。
LGBTに関する小説を読みたい人にもおすすめです。

④ 「桜の木の見える場所」 パオラ・ペレッティ／作 関口 英子／訳 小学館 YA書架 973ペ

「スターガルト病（若年性黄斑変性）」という少しずつ視力が失われる難病にかかっているマファルダ。9歳の時に診断されたマファルダは、少しずつ準備をはじめます。目隠しをして歩いたり、やっておきたいことを考えたり。そして何が大切なのかを見つけていきます。作者本人がこの難病と闘っており、マファルダの心理描写が秀逸な作品です。

⑤ 「キリンの運びかた、教えます 電車と病院も!？」 岩貞 るみこ／文 たら子／絵 講談社 YA書架 680イ

いろいろなモノが簡単に手に入る時代になりましたが、モノを届けるときには、必ずそれを運ぶ人がいます。
この本では、普段目にすることのない「運ぶ」プロたちの奮闘を知ることができます。
岩手から東京までトラックでキリンを運ぶ。日本で作られた鉄道車両をイギリスまで運ぶ。ひとつのミスも許されない、命によりそう病院の引越し。3つのプロジェクトをご覧ください。

YAとは…ヤングアダルトの略で、「子どもでも大人でもない世代」のこと。13歳から19歳くらいが主な対象です。

